

評価の実際

ここでは、本時（第5時）に行った〔国語への関心・意欲・態度〕①の評価の実際について、生徒の作品なども例示しながら述べる。

本単元の評価は、次の表1のような計画で行った。（ 囲みの部分は本時の評価）

表1 単元「小説に書かれていない場面を想像して、考えを交流しよう」における評価計画

観点 時間	国語への 関心・意欲・態度①	読む能力①	読む能力②	言語についての 知識・理解・技能①
1	○ 【観察】 【ワークシート①】 【学習計画表】			
2		○ 【本文ワークシート<Ⅰ>】 【ワークシート③】		
3		○ 【本文ワークシート<Ⅱ>】 【ワークシート④】		○ 【ワークシート④】
4		○ 【本文ワークシート<Ⅲ>】 【ワークシート⑤】		○ 【ワークシート⑤】
5	○ 【観察】 【ワークシート⑥】			
6	○ 【観察】 【ワークシート⑥】		○ 【ワークシート⑥】	
総括	※3つの評価結果が、2つ以上同じ結果の場合、その結果を単元の評価とする。3回の評価結果がすべて異なる場合（「A, B, C」の組合せの場合）は「B」とする。	※3つの評価結果が、2つ以上同じ結果の場合、その結果を単元の評価とする。3回の評価結果がすべて異なる場合（「A, B, C」の組合せの場合）は「B」とする。	/	※第3時と第4時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第4時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。

第5時の「国語への関心・意欲・態度」①の評価の実際（表1の 囲みの部分）

「国語への関心・意欲・態度」①「文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げようとしている」の評価については、第1時の、4種類の感想について解説する文章を読んで、それぞれの感想についてのものか考えるというモデル学習に取り組む場面と、第5時と第6時の小説に書かれていない場面を想像して交流する場面、及び、ワークシート⑥の記述によって行った。

指導に当たっては、第1時では「努力を要する」状況（C）の生徒を把握することに努め、その後の指導で、特にそれらの生徒の「国語への関心・意欲・態度」を育てるよう留意した。その上で、第5・6時における活動の様子やワークシートの記述の状況を踏まえて評価を行い、それらを総括して、単元の「国語への関心・意欲・態度」の評価とした。

第5時の「国語への関心・意欲・態度」①については次のような目安で評価を行った。

	「国語への関心・意欲・態度」①
「おおむね満足できる」状況（B）	○考えを広げるために、自分の考えを述べたり、友達 の考えについて質問したりしている。または、その結果 をワークシートに書いている。
「十分満足できる」状況（A）の キーワード	○考えを広げるための意欲的な発言 ○「自分の考えとの違いや関係」についての考察
「努力を要する」状況（C）と判 断される生徒への手立て	→考えや根拠の違いに注目させて、相手の考えが納得で きるものであれば自分の考えに反映させ、そうでなけ れば、納得できない理由を考えて言わせる。 →考えや根拠の違うものについて、交流でのやり取りや、 納得できた考えについて書くように促す。

評価は、ワークシート⑥の記述を中心に行ったが、実際の交流において、自分の考えを述べたり、友達の考えについて質問をしたりして考えを広げようとしている姿を観察によって捉え、その状況についても補完的に取扱い、評価を行った。なお、「交流後の考え」を書かせる際には、「再会する」「再会しない」と考えた理由だけでなく、交流を通しての感想についても触れながら書いてもよいことを伝えた。

実際の評価と指導は次のように行った。

■「十分満足できる」状況（A）と評価した例

図1の生徒は、ワークシート⑥に「最初の考え」として、「最後の『チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしまった』というところから今までの収集をなくして『僕』はこの思い出を忘れようとしているように思えるから」「再会しない」と書いている。

そして、「交流後の考え」には、自分と同じ「再会しない」という立場の人の意見を聞いて、理由が様々あること、また、自分とは違う「再会する」という立場の人の意見を聞いて、「エーミールのチョウをぬすみ後悔して再会して気持ちを伝えたいと思っている」という考えに納得したことを踏まえながら書いている。このことから、自分の考えとの違いや関係について考察した上で、交流を通して得ることができた、自分とは異なる考えを反映させようとしている状況と判断し、[国語への関心・意欲・態度]①「文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げようとしている」について「十分満足できる」状況（A）であると評価した。

この生徒の記述については、次時(第6時)の導入で紹介し、[読む能力]②「小説に表れているものの見方や考え方を捉え、交流して自分のものの見方や考え方を広げている」という評価

の観点からも、「十分満足できる」状況（A）であることを確認し、[読む能力]②についての指導にも生かすようにした。その結果、本生徒は第6時の[国語への関心・意欲・態度]①と[読む能力]②の2つの観点について「十分満足できる」状況（A）となった。

	最初の考え(どちらかに○を付けよう)		「僕」は「エーミール」に 「再会する」 「再会しない」		
	(複数の根拠を引用して総合的に考えよう)	そのように想像した理由 最後の「チョウを一つ一つ取り出し、指で粉々に押し潰してしま へ」というところから今までの収集をなくして「僕」はこの思い出を 忘れようとしているように思えるから 「僕」は「一度起きたことはもう償いがかまなものでない」と悟 った。という文が大人になってエーミールのことは忘れられたわ けではないだろうけどエーミールに対し申し訳ないかななどの 反省の気持ちを持っていると思う。			
↓					
	(参考にした友達のことを引用して書こう)	そのように想像した理由 同じ再会しないという考えの人でも理由はさまざまとい うは人の意見と聞いて、相手のことを気づかなくて伝えないよう してたり、逆に再会があるという考えの人の意見を聞いて、エー ルのチョウをぬすみ後悔して再会して気持ちを伝えたいと思っ ていたりして、「僕」はどちらの感情もあって迷っているのではな いかと思う。			グループでの交流後の考え 「僕」は「エーミール」に 「再会する」 「再会しない」

図1 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒のワークシート⑥の記述

図2の生徒は、ワークシート⑥に「最初の考え」として「久しぶりにチョウを見て過去の思い出を思い出してもう一度エーメールにあってそのことをたくさん話したいと思うから再会すると思う」と書いており、前半部分の出来事を、「僕」が「エーメール」に「再会する」動機と考えている。

「交流後の考え」も同様に「再会する」であり、「やっぱり再会すると思います。なぜなら、やっぱりエーメールにもう1度ちゃんと謝りたいという気持ちが大いと思うからと今のエーメールが今の自分をどう思っているのか知りたいと思うから」と書いており、「エーメール」の「僕」に対する思いや、時間の経過という観点を加えて考えを広げようとしていることが分かる。しかし、参考にした友達の考えを引用しているわけではなく、「自分の考えとの違いや関係についての考察」が十分ではなかった。

ただし、この生徒は、グループでの交流の際に、相手からの質問に熱心に答えたり、相手の考えを理解しようとして質問をしたりして、自分の考えを広げようとしていた。このことから、本時の「国語への関心・意欲・態度」①については「十分満足できる」状況（A）と判断した。

この生徒には、次時（第6時）に、ワークシートの記述について、参考にした友達の考えを引用して、どのようにして考えを広げたか具体的に分かるように書くことを助言した。このような助言を行うことで、第6時では、本生徒は「国語への関心・意欲・態度」①について、ワークシート⑥の記述においても「十分満足できる」状況（A）となった。

最初の考え（どちらかに○を付けよう）	<p>「僕」は「エーメール」に</p> <p>「再会する」</p> <p>「再会しない」</p>	<p>そのように想像した理由</p> <p>（複数の根拠を引用して総合的に考えよう）</p>	<p>その理由は、久しぶりにチョウを見て過去の思い出を思い出してもう一度エーメールにあってそのことをたくさん話したいと思っっていると思っから再会すると思っ。</p> <p>最初のページにチョウを見て幼年時代の思い出を強く覚えてると思っ、この話をすると思っ汚してしまっことに気が付くと思っ、でもって二十歳のころにエーメールに謝りエーメールは奴も鳴りもせずにエーメール自身の気持ちを伝えたいと思っ、次は自分の気持ちも伝えてエーメールにしっかり謝りたいから。</p>
グループでの交流後の考え	<p>「僕」は「エーメール」に</p> <p>「再会する」</p> <p>「再会しない」</p>	<p>そのように想像した理由</p> <p>（参考にした友達の考えを引用して書く）</p>	<p>やっぱり再会すると思っ、なぜならやっぱりエーメールにもう一度ちゃんと謝りたいという気持ちが大いと思っからと今のエーメールが今の自分をどう思っているのか知りたいと思っから。</p>

※ ワークシート⑥の一部を切り取って編集しています。

図2 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒のワークシート⑥の記述

■「おおむね満足できる」状況（B）と評価した例

図3の生徒は、ワークシート⑥に「最初の考え」として「エーメールは性格が変わってるかもしれない。エーメールの気持ちはまだ分からないけど、僕は『悪漢』だと決まってしまったからもう一度エーメールにあやまり、もうこんなことはしないということを書きたいから、再会すると思う」と書き、互いの成長を期待して、謝罪のための再会をすることを考えている。

そして、「交流後の考え」にも、「もう一度、再会して、もう一度、謝りたいと思っている。自分は一度してはいけないことをしてしまった。だから、変わった僕を見てほしいと思っているから」と書いている。

この生徒は、グループでの交流の際に、自分の考えが妥当であることを主張することはできていたが、他のメンバーの考えに対して、なぜそのように考えたのかを詳しく尋ねて検討することについては十分ではなかった。その結果、自分の読みについて実感を深めたものの、十分に考えを広げようとしているとは言えない状況であった。以上のことから、本生徒は「おおむね満足できる」状況（B）であると判断した。

なお、この生徒には、次時(第6時)に、考えを広げるために、立場や根拠の異なる友達の考えについて質問をしたり意見を述べたりして、自分との考えの違いを明らかにさせて検討することを進めた。その結果、本生徒は、第6時の学習活動において、[国語への関心・意欲・態度]①について「十分満足できる」状況（A）となった。

■「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への対応

本時の学習において、「努力を要する」状況（C）となりそうな生徒には、考えや根拠の違

最初の考え(どちらかに○を付けよう)	「僕」は「エーメール」に 「再会する」 「再会しない」	そのように想像した理由 (複数の根拠を引用して総合的に考えよう)	エーメールは性格が変わってるかもしれない エーメールの気持ちはまだ分からないけど、僕は『悪漢』だと決まってしまうから、もう一度エーメールにあやまり、もうこんなことはしないということを書きたいから、再会すると思う 僕には変わった僕を見てほしいと思っているから
※ ワークシート⑥の一部を切り取って編集しています。			
グループでの交流後の考え	「僕」は「エーメール」に 「再会する」 「再会しない」	そのように想像した理由 (参考にした友達の考えを引用して書こう)	もう一度再会して、もう一度あやまりたいと思っている。 自分も一度してはいけないことをしてしまった、だから変わった僕を見てほしいと思っているから。

図3 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒のワークシート⑥の記述

いに注目させて、相手の考えが納得できるものであれば自分の考えに反映させ、そうでなければ、納得できない理由を考えて言わせるようにした。また、ワークシートに交流後の考えを書くときには、考えや根拠の違うものについて、交流でのやり取りや、納得できた考えについて書くように促した。

前述したような指導を経ても、最終的に、「努力を要する」状況（C）と判断される状況にあった生徒には、第6時の学級での交流活動において、ペアで交流活動に取り組みせたり、教師と一緒に交流活動に加わったりして、考えを広げる楽しみを知らせ、生徒の「国語への関心・意欲・態度」を育てるようにした。そして、自分と異なる考えをメモさせて、それを自分の考えに反映できるように準備させ、[国語への関心・意欲・態度]①において、少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）となるように指導した。

■ 観点別評価結果の総括

「国語の関心・意欲・態度」①の評価については、第1時、第5時、第6時に評価場面を設定している。第1時は既習教材を用いて4種類の感想を読み、さらに4種類の解説文がそれぞれの感想のものであるかを考えるモデル学習に取り組む場面で評価を行い、第5時と第6時には、小説に書かれていない場面を想像して考えを交流する場面で評価を行うことにした。

これらの評価結果を総括する際に、3つの評価結果が異なる場合には、1頁の表1に記したように、以下の①、②のようにした。

- ① 3つの評価結果のうち、2つ以上同じ結果の場合には、その評価結果を単元の評価とする。
- ② 3つの評価結果が全て異なる場合（「A、B、C」の組合せである場合）には、単元の評価を「B」とする。

第5時と第6時は同様な活動であり、第6時では活動の進め方などにより習熟が図られることと、第6時では、自分が考えを交流したいと考える友達と交流をすることができることで、第5時にも増して意欲が高まることを期待される。したがって、第5時においては、記録に残す評価として位置付けているが、同時に、生徒の状況に応じて適切な指導・支援を行うことで、第6時の学習活動の充実につなげたいとの意図もある。

このように記録に残す評価を適切に位置付け、確実に評価を進めるとともに、単元を見通した形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っていくことが大切である。